

土佐市との 友好都市 提携35周年

北と南で交流を深めてきた江別市と土佐市は今年で友好都市提携35周年を迎えます。今月は友好都市土佐市と歩んだこれまでとこれからについてお知らせします。

まつりの熱気



温暖な気候



温暖な気候を利用して土佐文旦や小夏などの柑橘類のほかスイカ、なし、ブドウなどの果物の栽培が盛んです。

土佐市の大綱まつりは、伝統工芸品でもある「土佐和紙」の大綱を南北に分かれて引き合う豪快な祭りです。江別地区市民まつりでも、土佐市から贈られたこの大綱を引き合う土佐大綱引きが恒例行事となっています。

江別市と土佐市 基礎データ

江別市		土佐市
121,042人	人口 (H25.5.1)	28,707人
54,813世帯	世帯数 (H25.5.1)	12,305世帯
187.57km ²	面積	91.59km ²
キク ナナカマド	市花 市木	ユリ イチヨウ
7.5℃	平均気温 (H20~24)	16.5℃
976.3mm	平均降水量 (H20~24)	2,842.1mm

また、南部の横浪半島は県立自然公園に指定されており、美しい景観などが観光・レジャー産業の発展につながっています。

【土佐市の紹介】

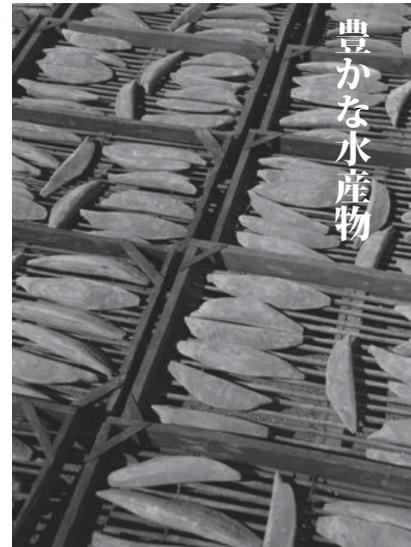
高知県のほぼ中央に位置する土佐市。平野、山、川、海と変化に富んだ地形と豊かな自然環境がさまざまな産業・文化を育んでいます。

基幹産業である農業は温暖な気候を活かしたメロンやスイカなどの施設園芸が行われ、中山間部では柑橘類の栽培が盛んです。

その他、仁淀川^{にようど}の豊かな水を利用した製紙工業や黒潮が運ぶ水産資源を活かした沿岸漁業、水産加工業など多彩な産業が発展しています。



豊かな水産物



大海原を悠々と泳ぐクジラ。5月から10月にかけてホエールウォッチングを楽しむことができます。



主要産業の一つとして発展した製紙業。昔ながらの製法による和紙作りも行われています。

カツオ漁の盛んな土佐は、土佐鯉節発祥の地となっています。

調印式



つたえ
板原 伝 土佐市長（左）と山田利雄江別市長（右）による調印式の様子。（会場：江別市民会館）

土佐市は昭和51年に市制施行20周年を迎えることを記念して、友好都市構想を打ち出しました。友好都市提携先を選定するにあたって、①ともに製紙業が盛んなこと、②市制発足当時の人口が同規模（3万人台）だったこと、③南と北の対照的な位置にあることを勘案して江別市を候補市として考え、昭和52年11月に土佐市から江別市へ北と南の衛星都市（土佐市と高知市、江別市と札幌市の関係）で交流したいとの提案がありました。

江別市では、昭和53年に開基100周年記念事業を予定していたこともあり、土佐市との友好都市提携を行うことを決め、昭和53年7月15日友好都市提携の調印を行いました。

以来35年に渡ってさまざまな交流が続いています。

スポーツ交流



友好都市提携10周年を記念して行われたバレーボール交歓試合。江別第三中学校と高岡中学校の生徒がスポーツで交流を深めました。（昭和63年度）

経済交流



江別市内で開催された土佐市物産展の様子。板原土佐市長も駆け付け、特産品をPR。文旦や鰹の加工品などが飛ぶように売られていました。（平成23年度）

35年間の交流の歴史

文化交流



平成2年から続く両市文化協会の交流文化祭。演舞や演奏などを通して交流を深めています。写真は交流祝賀会の様子。（平成24年度）

市民団体・企業などの交流

主な交流事業	内 容	開始年度
土佐市江別会 江別市土佐会の発足	物産交流やまつりでの市民交流	昭和53年度
大綱まつり	江別地区市民まつりで土佐の大綱引きを実施	昭和58年度
土佐ライオンズクラブ 江別ライオンズクラブ	友好クラブ調印 周年行事に相互訪問	昭和61年度
土佐市中央公民館 江別市大麻公民館	姉妹館調印 両市民展用の作品交換	昭和61年度
土佐郵便局 野幌郵便局	姉妹局調印 レタックスや広報紙の交換	平成元年度
土佐市文化協会 江別市文化協会	文化祭相互訪問 作品交換	平成2年度
土佐市職員労働組合 江別市職員労働組合	友好調印 やきもの市で土佐市の特産品販売	平成12年度
友好都市土佐市コーナー	グレシャムアンテナショップに土佐市の特産品コーナーを設置	平成16年度
土佐市物産フェア	土佐市の特産品を江別市で販売	平成18年度

市役所・学校などの交流

主な交流事業	内 容	開始年度
市長相互訪問	周年行事に相互訪問	昭和53年度
小中学生国内研修交流事業	小中学生の相互訪問	平成5年度
宇佐小学校 江別小学校	姉妹校調印 ビデオレターや作品の交換	昭和59年度
高岡中学校 江別第三中学校	姉妹校調印 手すき和紙の卒業証書と白樺コースターの交換	昭和60年度
学校給食	土佐市の文旦が学校給食に登場	平成16年度



「土佐市での驚きは一生の価値」 - 野幌中学校 大岩 詩乃さん (写真左)



私がこの土佐市への訪問で、最も楽しみにしていたもの。それは、土佐市の中学生の所へホームステイすること、土佐市の中学校に行くことでした。ホームステイすることは、最初、不安もありました。しかし、ただ土佐市に行っ

て帰ってくるだけではわからない、土佐市で生活して気付くこともあるのではないかと思います、ホームステイすることも、中学校に行くことも、とても貴重な体験になると思いました。そして、私の考え通り、この2つのことは、本当に貴重な体験になりました。

10月10日、訪問2日目。私は、前の日からホームステイさせてもらっている家から、ホームステイ先の子と共に学校へ向かいました。その途中途中には、江別市にはない自然が、これでもかというほどありました。うっすらと香る磯の香り、朝日で輝く地平線、山にはえる竹、南国を思わせるような木々…。まるで、遠く離れた異国のような。その異国のような風景は、今でも心に残っています。

その後、学校に着くと、私の第2の驚きが待ちました。それは、土佐弁です。少し気を抜くと、私はみんなが何のことを話しているかわからないほどでした。ですが、徐々に土佐弁がわかるようになって、北海道の方言との違いに気付き、おもしろかったです。江別市にいと忘れがちなものも、土佐市の人たちと生活したことで再発見というか、改めて考えることができました。

私がホームステイと土佐市の中学校に行くことで体験した貴重な体験は、江別市では見られない自然にふれあうことができたことと、土佐弁を学ぶと共に、江別市について考えることができたことです。これは、私にとって一生の財産になると思います。

私はこれから、今回の貴重な体験を活かし、自分の中学校だけでなく、地域や江別市がよりよくなるよう生活していきたいと思えます。3泊4日という短期間でしたが、学んだことは一生の価値。私は、土佐市に行ったことを誇りに思い、これから生きていきたいと思えます。

(平成 24 年度参加)

江別市小中学生国内交流研修事業集録「ぶんたん」より転載

明日に繋がる思い出 小中学生相互交流

江別の将来を担う人材として成長してもらうことを目的に平成5年度にスタートした小中学生国内交流研修事業。20年におよぶ交流は子どもたちそれぞれの人生の宝物となっています。

「20年前」 - 農業 福田 雅彦さん

20年前、改めて石狩平野の広さを感じた。

江別で生まれて、江別で育った。私の住むところはたまに江別市民からも「橋から向こうは当別でしょ?」といわれることも多々ある地域。だけど、それはたまたま広い平地に一本大きな河が流れれば境界線のように思うのもなんとなくわかる気がする。

土佐は違う、周りは山、山、山。大きな歴史に守られている、そんな雰囲気のある街。山間の空気は優しい匂いがしたし、道の狭さや路地の入り組んだ感じも新鮮だった。

私は農家の3代目として水稻・小麦・花卉を生産している。

今、農家の後継ぎの立場になり、花を作っていると小学校で習った促成栽培の技術が気になって仕方がない。高知は先進的な技術を持った産地。昨今の猛暑で北海道の農家はてんでこまいののに、より暑い高知のほうでは周年の出荷体制をとっている。

今だから学びたいし、繋がりたい。20年経ってそう思える縁をつくってくださった皆様に感謝するとともに、この交流事業が土佐・江別両市の発展につながることを切に願いたいと思う。

(平成5年度参加)

江別市小中学生国内交流研修事業 20年記念誌より転載



みかん狩り



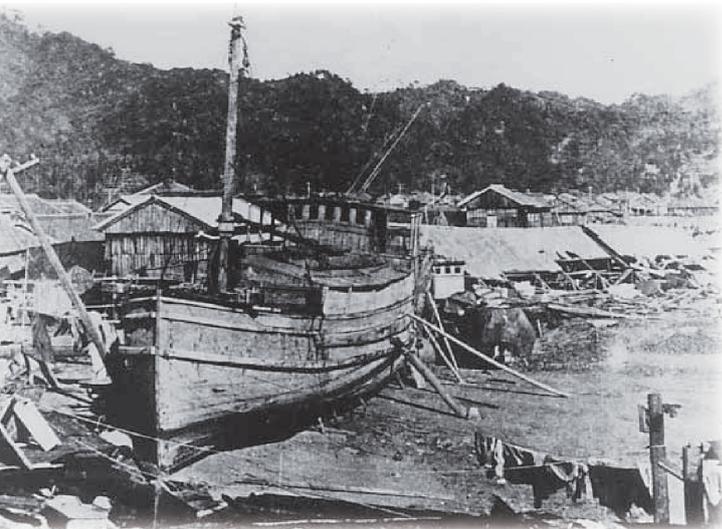
和紙の紙すき体験



高知城にて



鯉のたたき作り



昭和 21 年の南海大地震は、現在の土佐市宇佐地区などに甚大な被害をもたらしました。

違いを活かして助け合う 災害協定の締結

【8月2日に協定を締結】

東日本大震災以降、被災のない地域からの災害情報や支援物資の提供をはじめ、災害対応に係る人的支援や避難者の受け入れなど、同時に被災する可能性が低い遠隔地とだからこそ相互に有効な応援体制を築ける点から、災害時の相互応援協定を締結する自治体が増えてきています。

昭和53年から友好関係を築いてきた江別市と土佐市は友好都市提



災害協定の締結に向け、握手を交わす土佐市の板原市長（右）と江別市の渡辺調整監（左）。



昭和 56 年 8 月の洪水で江別小学校の体育館に避難した人々。この災害では土佐市や土佐市の市民団体から義援金など多くの支援をいただきました。

携35周年を迎えるのを契機に、大規模災害時に求められる両市相互の連携支援に関する協定の締結に向け、協議を進めているところです。

【協定の内容】

支援の主なものとしては、食糧・飲料水や避難生活での必需品や支援物資などの提供や災害対応に必要な職員の派遣、資機材の提供のほか避難者の受け入れや情報共有などが考えられています。

【異なる環境だからこそ】

南国の土佐市と北国の江別市。環境や気候風土の違いや災害の特

色が異なる両市だからこそ共に学び合えることが多く、その特性を生かして相互に支え合う取り組みが可能になると考えています。

この災害時相互支援協定による支援活動が実際に行われる災害が起らないことを望みますが、相互の協力体制を確認し合い、さまざまな災害に対応できるよう準備を整えていくことで、これからはますます両市の友好関係が深まり、末永く続いていくことを念頭に取り組んでいきたいと考えています。

災害協定に関する詳細

総務部総務課（危機対策・防災担当） ☎ 381・1407

【土佐市を身近に】

距離的には遠く離れている土佐市ですが、友好都市としてこれまでさまざまな交流を行ってきました。35周年を迎える今年も8月2日(金)に土佐市から板原市長をはじめ10数名の訪問団が来江し、江別地区市民まつり（詳細P9）の「土佐大綱引き」にも参加する予定となっており、江別市民との交流を楽しみにしています。

また、10月26日(土)、27日(日)は土佐市の物産販売会がトンデンファーム（元野幌968・5）で開催される予定です。

このほか普段味わう事が少ない土佐市の特産品を購入できる場所としてグレシヤムアンテナショップ（東野幌町3・3 ☎ 385・6056）に土佐市コーナーが設けられています。

まつりでの交流や特産品を通して、皆さんも土佐市を身近に感じてみてはいかがでしょうか？



土佐市の特産品が購入できるグレシヤムアンテナショップの土佐市コーナー
開館時間 10:00 ~ 20:00 月曜休

友好都市に関する詳細
企画政策部秘書課 ☎ 381・1008